

運命を変える  
人生創造の書(1)  
『トレイル』

# TRAIL

# 命改編



人生を根本から  
意図的に変える  
運命のルール

「ただ生きるだけでは無い」のが人生であり、人の性です。

それぞれが自分の理想や願望を持ち、できることなら成し遂げたいと思っています。

しかし、人生レベルの願いを叶えるのは、そう簡単ではありませんよね。

勉強しても、試行錯誤しても、努力しても、なかなか現実が変化せず、同じところをグルグル回っている気さえする。

人は、必ずと言って良いほど、この「人生の頭打ち」を人生のどこかで経験します。

その中で、自分の人生はこんなものだ・・・と早々に諦めてしまう人も大勢いるでしょう。

しかし、この世には「法」や「因果」というものがあります。

必要な原因が揃えば、結果として必ず出る。

要するに、やるべきことをしっかりやっていれば、願いは叶うのです。

「だったら、どうすれば良いの・・・？」

目的地へたどり着く方法を決める前には、必ず「現在地」を知る必要があります。

つまり、あなたが何にぶつかって留まってしまっているのか？を知れば良いのです。

では、大抵の人が何で留まっているのか？

それが、この教材のテーマである「運命の壁」。

人が進歩しようとしたときには、様々な要素が壁となります。

知的な障壁、経済的な障壁、肉体的・精神的な障壁。

どうにかしてその壁を越えないと、それより先の世界を見ることはできず、同じ所を行ったり来たりしてしまうのです。

そして、その壁の一番外側にあるのが、実は、この「運命」という障壁。

その金型の中で定められた様に生きるのか？金型の形を自在に作り替えることができるのか？では、全く異なる人生を送ることになります。

つまり、「運命は変えられる」のです。

☆運命は「風と翼」

蝶々は羽ばたくことで風を起こして飛んでいるのでしょうか？それとも、風に飛ばされているだけなのでしょうか？

正解は、「風を利用して飛んでいる」です。

運命には「流れ」というものが無数にあり、どの流れに乗るか？を選ぶことで、様々な未来へたどり着くことができます。

蝶々の様な小さな生き物でも、風を利用し、軌道修正を図ることでかなり遠くまでたどり着くことが出来るわけです。

これは要するに、「運命は味方にする事さえ出来る」ものだということ。

ただ、蝶々と違うところがあります。

人は勉強ができるので、仕組みや原理原則を知り、それに則った生き方をすることで、どんどん有利な人生になっていくんですね。

そこで今回、運命がどういうもので、どうすれば変えていけるのか？をまとめたPDFを作成したわけです。

人生や世の中に対する「捉え方」と「生き方」が大きく変わり、あなたが描く志へと大きく近付くお手伝いができると思います。

## ☆運命を変える3つの条件

早速ですが、運命を変えるには3つの条件があり、より高度な志を果たそうとするほど、この3つが大事だと気付かされるはずです。

- ・ 活力を養成する
- ・ 学問修養で道を開く
- ・ 運命そのものに働きかける

元気がなければ何も出来ないし、人として立派でなければ道は開けないし、運命を変えないと同じところを行ったり来たりしてしまいます。



そして、この教材で解説するのは、「運命に働きかけるための理法」です。

他の2項目も公開する予定ですが、今回はまず、人生の大枠をつかんでもらうために、運命について学んでもらいます。

## ☆運命に働きかける方法

そもそも、運命というものは2つに分けることができます。

一つが「宿命」といって、生まれる前からあらかじめ決まっていて、変えることが不可能なもののことです。

これは例えば、DNA、生まれた日時や場所、親からもらった名前、家庭環境なんかがそうですね。

もう一つが「立命」といって、これは自分の志を果たすために、運命を自ら立てていくことを指します。

つまり、人生を自分の思い通りに創造するということです。

人は宿命に支配されてしまうと、限られたごく小さな可能性の中でしか、生きていくことが出来なくなります。

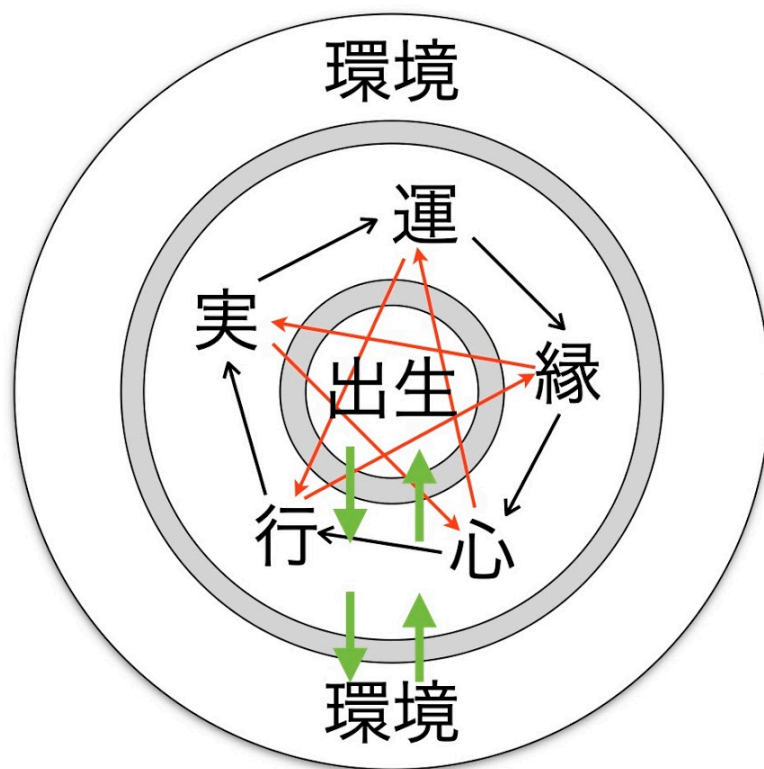
なので、宿命を克服して立命へとシフトしていくというのが、人に与えられた一つの道なんですね。

僕は宿命から立命に移っていくプロセスには3段階（宿命→開運→立命）あると思っています、それに沿った解説をしていこうと思います。

宿命の呪縛を克服したら、運命を自由に想像できる様になって、最後は人生を創造して行く、という流れです。

# 1.宿命を克服する

まず必要なのは、宿命による支配を克服することです。



「三環五転」

宿命には3つの構成要素があります。

それが図中の3つの円で、真ん中から順に「出生」、「習慣」、「環境」と並んでいるのです。

「出生によって元々持っている特性が決まってしまい、特性によって習慣に癖が出て、習慣から環境にも影響して行く」

なんて捉えることもできますし、

「環境によって習慣（日々の暮らし）が左右され、成長の仕方によって特性（出生）の現れ方が変わってくる」

という逆の流れもありますね（緑の矢印）。

でもって、出生と環境からの影響に身を任せるのではなく、それを創造していかなければいけません。

つまり、三つの円（出生、習慣、環境）を意図的に変化させて行くということ。

出生に対しては、「上品（じょうぼん）」とって、自分の持っている性質を良い方向に発現させて行くことで、克服することが出来ます（反対を下品（げぼん）という）。

人は、元々持っている性質、カラーという意味では、皆それぞれが良いところも悪いところも持っていて、成長の仕方が少しずつ違うのです。

だから、自分と他人との性質の違いを知り、良いところは伸ばす、悪いところは補う、ということが必要になります。

習慣に対しては、図中の様に5つのアプローチ要素（行実運縁心）があり、それをPDCAサイクルみたいに循環させて行く中で、徐々に改善して行くことが可能です。

行（行い）なら、普段しっかり掃除したり、体に良いものを食べたり、適度に体を動かしたり、人の役に立ったりしているか？という問いかけができますね。

実（現実）なら、日々の行いによって少しずつでも状況を進歩させているか？と問いかけることができます。

運（運の良さ）なら、蝶々が風を乗り換える様に、現実の変化から流れを感じ取って、それにうまく乗っかっているか？と問いかけられます。

縁（ご縁）なら、流れの変化から発生する些細なご縁（たった一人の人や一冊の本など、全ての出会いを含む）を大切に、そして活かしているか？と問えます。

心（精神）なら、人から頂いた物だけでなく、そこに込められた思いや苦勞などに感謝して、「いただきます」と心から思っているか？と問えますね。

あとは、心を養うと行動力を得るので、行に戻りますが、それぞれの心がけが習慣を変え、環境を変え、出生からの影響まで変えてしまうのです。



環境に関しては、作り変えることも選ぶこともできます。

例えば、掃除は地道な行動ですが、堅実で確実な効果を得られます。

それに対して、引越しなどすると、環境を一気に大きく変えられる分、副作用も大きいことを覚悟しておかねばなりません。

時と場合に応じて、直接手を加えて環境を変えるべきか？場を移すことで環境を変えるべきか？判断しましょう。

ここまでのことを意識できる様になれば、あなたは宿命に立ち向かったり、補ったりできる様になっているはずです。

人生の構成要素はそう単純ではありませんが、図を参考にして、自分や大切な人がどこでつまづいているのか？を判別するだけでも違います。

「これ、いつものアレのお陰で起きた現象だな」とか、「まだまだ行いが足りてないな」という風に、物事の因果を感じ取れる様になりましょう。

## **2.運命を開く**

宿命を自分の利点として活かすこと（上品）ができる様になってきたら、次は単純に運命を変えられる様にしないといけません。

そこで、「運命を開く」ということをします。

開運という言葉がありますが、ここでは「運命の自由を利かせる」ことだと思ってください。

つまり、Aという未来とBという未来があった時に、そのどちらも好きに選択できる様にする、ということです。

そのために、運命の幅を広くする、未来の可能性を広げる、というのがこの段階ですね。

では、どうやって運命の幅を広くするか？ですが、これは、「運命を変える根本的な方法」に帰します。

- ・ご縁を活かす
- ・選択肢を増やす
- ・より良い選択をする

まず、人は学習をするか、何かの拍子に悟るのを待たなければ、成長することがありません。

つまり、運命を変えるには、それなりのキッカケとなる「ご縁が必要」なのです。

だから、選択肢が少ない時ほど、その時その時のご縁一つ一つを大切にしないとダメです。

人との出会い、知恵との出会い、景色との出会いなど、何もかもがご縁です。

それらを大切に、そして活かしてください。

次は、選択肢を増やすということ。

ご縁で運命を変えるキッカケを得られることが分かったなら、本屋に行ったり、旅行をしたり、知らない人と会ったりして、幅を「広げてみる」のも一興です。

その時その時の成長テーマを持って、アンテナを立てながら活動すれば、様々な学びを得られるでしょう。

ただ、別に外側へ求めるだけが学習ではありません。

日々の生活の中で、自分や周りの人、それぞれが抱える問題などと向き合って、「深める」ということもできますので、覚えておいてください。

最後は、より良い選択を心がけること。

疲れてベッドの上で一休みしている時、そのまま2時間くらい寝てしまうのか？

それとも、20分くらいの瞑想でスッキリして、仕事を再開するのか？

例えばこういう選択肢があった時に、どれだけ迷わずより良い方を選べるかだけでも、人生は大きく変わってしまうものなのです。

運命の流れを自分で用意して、意図的に選ぶ。

そうして軌道修正を繰り返したただけ、未来は書き換わります。

ここまで来れば、あなたはある程度自分の人生に「自由を利かせる」ことができる様になっているでしょう。

Aも、Bも、Cも、別にやろうと思えばできるし、後は選ぶだけで良い。

この状態が立命（人生の創造）にはどうしても必要なのです。

ただ、自由の幅にも限度があるので、あなたの志に近い方へ伸ばしてくださいね。

### 3.立命を果たす

悔いの無い人生を送ろうとしたら、やはり志を果たしにかからなければいけません。

- ・どんな人間でありたいのか？
- ・どんな人生にしたいのか？
- ・どんな世界にしていきたいのか？

その上で、「自分はこれをやるんだ」と心に誓うのが志なんですね。

もちろん、志が変わることもありますし、それはどんどんアップデートすれば良いんですけど、変



わらないのが、「志を果たすために必要な要素」  
です。

で、その要素というのが、「この世のあらゆる物  
事（人・生・世）を味方につける」ということ。

この世のあらゆる物事というのは、「人間」、「人  
生」、「世界」の3つに分けることができ、それ  
ら全てを良い方へ活かすことで、立命は果たされ  
ます。

（実際には「徳を積む」とか「道を開く」という  
ようなこともあるのですが、これはこの教材の修  
道編でお話しする予定です）

人間には人間の真理があり、人生には人生の真理があり、世界には世界の真理があります。

それらを学べば、自分はどうすれば輝けるか？周りの人とどう関われば輝いてくれるか？世の中にどうアクションを取れば輝いてくれるか？が分かり、為せば成る条件が整うのです。

ですから、森羅万象はどうすればどうなるのか？という「この世の真理」を学びましょう。

例えば、「人」を構成する要素も様々ですが、以下の様に解釈することも可能です。

人には「3次元のベクトル」があります。

愛情（精神的モラル）の様な「徳性」の縦軸があり、知恵（実質的モラル）の様な「才能」の横軸があり、その人独特の個性（性格のカラー）の様な「性質」の奥行きがあるのです。

学問修養によって愛情と知恵を伸ばし、個性を上品させれば、必ず良く出来た立派な人に成れるでしょう。

また、「人生」にも色々ですが、一つとしてこんな話があります。

人生には「周期」というものがあり、それは1日で一周したり、1年で一周したり、人生全体で一周したり、また、日々の生活に意味付けをすれば、1週間とか、1ヶ月でも一周する様になっているのです。

周期の初めは、夜中から明け方の睡眠の様に、つぼみを付ける前の桜の様に、「体力を蓄えがち」で、幼い赤ん坊の様に動けなくなります。

そこから目覚めたり、春になって暖かくなってきますと、はしゃぐ子供の様に「忙しく動き回る」のが朝の戦いですね。

新年度や朝で忙しいままゴチャゴチャやっておりますと、なかなか「手が届かない問題」が出て来て、しつけの行き届いていない子供と同じ様に、梅雨の頃には庭の草木がボーボーに生えてしまうわけです。

昼間や夏の様な、日差しがきつい時期まで問題を放っておくと、その時に草木を切るうとしても大変で、問題児や不良少年と同じ様に、「手が付けられなく」なります。

夕方や秋になって、やっと庭の手入れをするとしたら、もう次の種が落ちていて、実の息子娘が望まない子供を生んでしまったかの様に、「新しい問題の種」が増えてしまうのです。

実は、この様な悪い流れが家中を散らかす原因であり、その乱れが「来年の春や翌朝も忙しくさせてしまう」のでした。

- ・ 朝と子供はしつけ良く、規則正しく
- ・ 昼と大人は問題がなければ温かく見守る
- ・ 夕方と年寄りには次の流れに向けて準備する

占いの教えである「易経」には、これと似た様な教えがあります（こちらはものすごく要約してますが）。

最後は「世界」ですが、一つとして「流れの良し悪し」ということを考えると良いです。

例えば、不景気は、行き過ぎなければ別に悪いことではありませんし、好景気も、行き過ぎたら悪い状況になります。

それぞれの良い所・悪い所があって、それに「応じた暮らし方」があるだけなのです。

好景気は、お金をどんどん回すことで「物質な豊かさ」を整えるのに適していますが、ある程度進むと過剰になりましますし、バブルが一人歩きしてどこかで崩れますから、早めに手を引いておく必要があります。

不景気は、人口が減少したり、住宅が安く手に入る様になったりしますから、あんまり沢山働くよ

りも、大家族でアルバイトでもしていれば良く、  
お金よりも一緒に暮らすための「生活面や精神  
面」が重要になります。

こういう波を観察した上で、各業界の人はどんな  
ものをどれだけ作り、提供するか？を考えるわけ  
ですね。

こういった人・生・世を捉える学問のことを、「帝  
王学」と呼びます。

占いや干支なんかも帝王学的な観点を元にしてい  
て、その原型や根幹にある思想を学ぶと役に立ち  
ますね。

特に今は時代が不安定ですから、判断力を鍛える  
ために「東洋思想」を学ぶのはオススメです。

ただ、出回っている情報が少ないので、もっとこちらから発信していけたらと思います。

## ☆最後に

ここまでの話はまだ、条件が3つあるうちの1つを簡潔にまとめたに過ぎません。

特に、最後紹介した様な帝王学はまだまだ他にも沢山ありますし、それぞれを詳しく解説しようものなら、一つの観点で一つの教材が書けてしまいます。



だから例えば、仏教は宗教というよりも人間哲学なので、そこから学んでみるのも良いと思いますね。

「因果」、とか「法」とか、運命学に関わる話もかなり豊富です。

論語なんかもいいですね。

人や大衆がどういうもので、どうあるべきか？が分かります。

この教材はあくまで「根幹」の部分をまとめたに過ぎないので、足りない部分は自分で学ばないといけません。

ですが、人生の創造はそこからすでに始まっています。

- ・どんな人間でありたいのか？
- ・どんな人生にしたいのか？
- ・どんな世界にしていきたいのか？

これらの問いを日々自分に投げかけながら、志に近付いて行ってください。

他の2つの教材もお楽しみに。

次の修道編では、運命のルールを理解した上で、では「実際にどう生きていくべきなのか？」について解説します。

とは言っても、人によって歩む道は違うので、理論と実践論の中間くらいの話になりますね。

物事を学ぶときは、まず内容の根本・根幹を掴み、そこから枝葉末節の細かい話を聞くのがオススメです。

今回は最も抽象的な運命の話で、次はもうちょっと具体的な、人生の話。

どう生きるべきか？が分かると、どう暮らすべきか？が見えてきます。

それを意図的に行うところから、意図せず自然にできるところまで落とし込む。

すると、「次の段階」のことを考える余裕が出てきて、志がアップデートされることもあるでしょう。

無限に続く成長の中に身を置くこと。

これが道というものであり、人生をやり切るということなのです。

あなたの人生が、単なる時間ではなく、道となりますよう、お手伝いができたなら幸いです。

ありがとうございました。

# 金原昌史

→バンカラ道に戻る